

北沢議員

恐竜ロードについて

問 福井県立恐竜博物館には連日子どもを連れた家族が多く来られており、益々来館者が増えていくものと思われる。そこで、郡町より村岡町暮見交差点までの市道5の21号線を勝山恐竜ロードとして地域また市の活性化の一つとして整備出来ないのか。市道5の21号線沿い地域を農業振興地域から除外することが出来ないのか伺う。

答 また福井県が野外博物館のシャトルバスの発着場所を恐竜博物館周辺で考えていることが明確になってきたが、市として「恐竜の駅」の設置場所についてどのように考えているのか伺う。

答 市道5の21号線沿いは農業振興地域であり、原則として農地転用することは認められていない。ただし例外的に農産物の集出荷、加工、貯蔵または販売するための施設や道路の拡幅など、やむを得ない理由がある場合は農地転用が認められている。こうした農地転用を希望する農家の声があれば真摯に向き合って対応していく。

「恐竜の駅」の候補地、規模、機能、運営スキームなど具体的なイメージについては、「恐竜の駅調査研究会」での研究を踏まえ、市議会に検討内容と進捗状況を報

その他の質問
・公金の債権回収業務について

告し、ご意見をいただきながら検討していく。

通学路の安全対策における「ゾーン30」の設定について

問 子どもの安心安全対策として狭い幹線道路や通学道路の最高速度を時速30kmにする「ゾーン30」を導入する考えがないのか伺う。

答 また通学道路にある横断歩道の設置場所の点検が必要な所があると思われるが、見解を伺う。

答 勝山市においては、勝山警察署交通課、奥越土木事務所、市建設課による事前協議が行われたところであり、今後、導入に向け検討を進めていく。

通学路については、毎年4月に各学校において安全点検を行っている。児童生徒の安全確保は、何よりも優先されるべきことであるため、今後も、横断歩道の設置場所も含め通学路の安全点検に継続して努力していく。



市道5の21号線

松村議員

勝山城博物館と勝山市の連携について

問 ①勝山市と勝山城博物館との連携の在り方については検討委員会が設置され議論が行われていた。検討委員会での検討結果から導き出された施策は何か。

②そもそもこの問題の発端は、「民間事業者たる勝山城博物館に市所有の文化財を貸し出せない」ことにあった。この認識で間違いはないか。また、その理由

③勝山城博物館を運営する多田清文化教育記念財団は、本年4月1日に公益財団法人となった。これにより市所有の文化財を貸し出すことは可能になったと考えるが所見を伺う。

④勝山城博物館を市の文化財保護行政の中でしっかりと位置づけ積極的に利用すべきではないか。

答 ①勝山市が勝山城博物館の1階フロアを借用し、勝山市の自然や歴史・文化がわかる歴史民俗博物館的な展示施設として、市や個人所有の文化財を広く内外に紹介しようとする施策である。

②一般財団法人である勝山城博物館は一民間事業者という位置づ

けにあり、公平・公正が求められる地方自治体として、貸し出すことには消極的な対応をしてきた。

③公益財団法人は一般財団法人と比べ公益性が高いため、今後は市所有文化財の勝山城博物館への貸出は可能になったものと認識している。

④勝山城博物館は市内唯一の歴史系博物館で、すばらしい展示施設と収蔵施設を有しているため、博物館を積極的に活用し、貴重な文化財を展示・収蔵することは極めて意義の大きなことと考えている。

今後は、市所有の文化財を積極的に貸し出すと共に、特別展や企画展などを市と博物館が共催することも検討し、多くの市民、来訪者に勝山市の歴史・文化・自然について触れていただき、市民の文化向上及び郷土文化の発展につなげていきたい。



勝山城博物館